

6 本時の学習

(1) 目標

専門家や保護者を迎え、これまでの活動を通してまとめた提言を公開討議することを通して、「地球環境のために今できること」について視野を広げ、学習や生活を見直すことができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点 (【】 評価)
であう	5	1 前時の学習を想起し、本時の課題を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ パネルディスカッションの目的や意義、今日の課題、プログラム等を確認する。 ・ ゲストティーチャーを紹介し、この機会に様々な視点で学んで欲しいこと、学んだことは校区の祭りに生かすことを伝える。
		<p>パネルディスカッションを開き、環境について互いの考えを討論することを通して、今できることを考えよう。</p>	
さぐる	45	2 パネルディスカッション「未来の地球環境を守ろう」を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境の現状とその原因は、できるだけ具体的にフリップや実物を見せながら説明する。解決策は、体験を基にした具体的な根拠を示す。 (1) はじめのことば (2) パネルディスカッション1 「開発・改善の視点から」 『食』食糧難を考える。 『森』割り箸から世界を考える。 『エネルギー』新エネルギーの開発と省エネの取り組み (3) パネルディスカッション2 「自然を守る視点から」 『水』多布施川の水質を守る。 『動物』佐賀の絶滅危惧種を救う 『資源』栽培活動で資源の枯渇を守る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 討論に至るまでに集めた情報や積み重ねてきた体験を生かして、豊かで確かな未来をつくるために自分の言葉で話し合うことができるように、机上にポートフォリオを準備させる。 ・ 「現状からの未来予測」「原因」「解決策」の視点で、児童の発表や感想、意見を黒板に整理し、それぞれの考え方や取り組みのよさを明らかにする。 ・ 発表の内容を的確に聞き取るために共通点や相違点をメモするように助言したり、よい視点をチェックして、発言を促す。 ・ 司会者が、パネリストの討論を整理してフロアに伝えて質問や意見を求め、全員の討論に発展させることができるように支援する。その際、できるだけこれまでの体験を基にした具体的な根拠や思いを引き出すような質問をするように促す。 ・ 参観の保護者にフロアとしての意見をお願いする。経験に裏付けされた考えを聞かせることで、身近な生活の中にある事実を掘り起こして考えさせる。 ・ 質問に即答できないときには、ポートフォリオに収集した情報を活用させたり、きっかけを与えて発言を促したりする。 <p style="text-align: right;">【評価(3)イ 発表・発言内容】</p>
ふかめる	20	(4) ゲストティーチャーに学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主に、栄養職員のゲストティーチャーには「食の安全」の視点で、下水道課のゲストティーチャーには「水質汚染」の視点で、環境課のゲストティーチャーには「佐賀市の絶滅危惧種」の保護の視点で、事業者のゲストティーチャーには「住宅資材」と「太陽光発電」の視点でアドバイスをもらう。保護者の方々にも感想や意見をもらい、今後に生かしたい。 ・ ゲストティーチャーは、ここで退場するので、礼を述べさせる。
まとめる	10	3 パネルディスカッションを振り返り、感想や意見をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価カードに、何を学んだか、学んだことをどう生かしていきたいか、感想や意見を記入させる。その際、ルーブリックを活用させる。 <p style="text-align: right;">【評価(1)イ ワークシートの内容】</p>
	8	4 学んだことについて、意見交換を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「開発」では、環境保全と開発はお互いに反するものではなく、共存し合えるものとして捉えることができるなど、多様な視点をもたせたい。 ・ 「自然を守る」では、生きるということは、何かに影響を与えていることであり、世界のどこかや未来に影響を及ぼしていることを認識させ、自分の生き方を振り返らせる視点としたい。
	2	5 次時の活動を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動のよさを認められたこと、交流で深まったことなどを取り上げ、価値づけて、次への意欲へと繋げる。

(3) 本時の評価

評価規準	評価基準及び評価後の指導 (→)		
	十分達成	おおむね達成	努力を要する
<p>評価(3)イ 活動を通して学んだことや自分の考えをわかりやすく伝えることができる。 【技能・表現】</p>	<p>環境の現状や原因、解決策について、具体的な体験やデータをもとに根拠を示しながら筋の通った論を展開している。</p> <p>→ 発言内容をまとめて板書したり確認したりして、考え方や取り組みのよさ、論の組み立てのよさを広げる。</p>	<p>環境の現状や原因、解決策について、自分なりの根拠を示しながら説明している。</p> <p>→ 「例えば」「どのくらい」「条件が変わると」などのキーワードで問い、具体的な体験やデータなど、根拠となる例を引き出す。</p>	<p>環境の現状や原因、解決策について、自分の考えを発言することができない。または、発言に根拠がない。</p> <p>→ 自分の考えを発表できないときは、フリップを活用させながら、準備しておいた原稿をもとに発言させる。</p> <p>→ 質問に即答できないときには、ポートフォリオに収集した情報を活用させたり、きっかけを与えて発言を促したりする。</p> <p>→ 根拠を述べないときには、「なぜそう思うのか」を問う。</p>
<p>評価(1)イ 意見交換を通して視野を広げ、自分の取り組みや生活に生かそうとする。 【関心・意欲・態度】</p>	<p>友だちやゲストティーチャーの話を聞いて、様々な視点から見た環境の現状や環境を守ろうとする取り組みを理解して視野を広げ、自分の生活にどのように生かしていきたいか考えを書いている。</p> <p>→ 学んだことを起点として新たな学習や行動につながるように、よい視点をチェックして、発言を促す。</p>	<p>友だちやゲストティーチャーの話を聞いて、環境の現状や環境を守ろうとする取り組みに気づき、自分なりに活動や生活を見直そうとしている。</p> <p>→ どのように自分の生活に生かしたいのか、具体的に尋ねて考えを明確にさせる。</p>	<p>他のグループやゲストティーチャーの説明を聞いて、その取り組みの意義を理解しようとしたり、自分なりの感想や意見をもったりしようとしていない。</p> <p>→ 発表の内容を理解するために、キーワードや共通点や相違点をメモするように助言する。記録したキーワードをもとに、対話を通して考えをまとめさせる。</p>